

【認知症予防事業、地域交流サロン「ソビラ」を開催】

①健康づくり、レクリエーション、趣味活動、介護予防を通じ、高齢者の生きがいを高めることで孤立や引きこもりの解消につなげるとともに、身体機能の低下を予防することで住み慣れた地域で安心して生きがいを持って生活していただけることを目的としています。

②役場職員や警察署、消防署の職員に講演していただいたり、様似町の自然などのDVDを鑑賞したり毎回趣向を凝らし開催することで、町内に居住する高齢者の方々に多く参加していただき、良い交流の場を提供しております。

社会福祉法人 芽室町社会福祉協議会

芽室町

【ふれあい交流会】

①目的：引きこもりになりがちな「独居高齢者」の居場所づくりと他者との交流により、生活に潤いを生むこと。

内容：ボランティアによる心のこもった手作りの昼食の提供の他、ゲーム、ふまねっと運動、幼稚園児との交流、日帰り旅行など年間 21 回実施（今年度より 12 回）

開始時期：昭和 63 年（1988 年）4 月

②評価：毎回、仲間に会えることに楽しさと喜びを感じている。結果として、「安否確認」の効果もある。

課題：会場が市街地の公民館。そこに全行政区からの参加ということで、利用者の高齢化に伴い参加困難な方が増加。また平成 29 年度実施のアンケート調査で、外出の頻度が 2 回以上/週の方が 80%、他者交流では 1 回以上/週が 60%という結果となった。これを受けてボランティアの中には、「当初の役割は終わった」との声も上がっている。

以上のことから、今後は「一点集中型」から「町内会行事」へ移行し、「ごちゃまぜサロン」のような形式を考えていきたい。

【高齢者サロン】

①「高齢者サロン」では区の保健福祉部、地域包括支援センター、介護予防センターと協働し、地域のお年寄りの認知症予防を目的とした活動をしています。

②サロン参加者からは、活動が外出のきっかけとなっており、健康を意識するようになったという声が聞かれるようになりました。

【あいさぽ～養護老人ホームあいらんによる地域貢献事業～】

①当施設の近隣に住んでいる高齢者を対象に、外出頻度が少なくなる冬期間に、閉じこもりや転倒等を予防するための機会づくりを行う取組です。ご自宅に施設の車でお迎えに上がり、施設にある機能訓練マシンの使用と、要介護状態にならないための予防体操や、認知症予防のための頭の体操、職員との各種相談など、ざっくばらんな会話を楽しむ場として、地域の新しいコミュニティ作りのお手伝いとなれるように実施しています。

②事業実施前のリサーチでは、「冬期間に外出機会が減少すること、運動の機会が少なくなること、自家用車がないため外出の範囲が制限されること」が挙げられており、当施設には、パワーリハビリテーションの設備が整っており、それを地域に開放する場を作りたいと考え、当事業を実施しています。

計 15 名の方が参加され、徐々に参加者同士も顔見知りになり、目的の運動以外にも、お話をする楽しみも増えてきたように見受けられました。実施後にアンケートを行い「運動の効果が実感できた」、「冬場以外にも実施してほしい」、「回数をもっと増やしてほしい」などの意見を頂いています。